

# 架け橋

題字：明倫子育て支援協議会 会長 岡山 恭治氏



第43号

平成30年3月

舞鶴市立明倫小学校PTA交流部

## 「つなぐ」

PTA会長 柴田 久史

はじめに、この1年間明倫小学校PTA活動が会員のみなさまのおかげで無事に終わることができましたことを厚くお礼申しあげます。微力ではございましたが、2年間にわたりPTAの代表としての務めを果たすことができたのもみなさまのおかげと感謝しております。

時期がずれてしまうのですが、私は「箱根駅伝」を観るのが好きです。東日本大会ですから、関西の大学が出場しないのはわかっていますが、お正月の定番になっています。

青山学院大学の原監督の選手起用、東洋大学の酒井監督の名言「その一秒をけずりだせ」など実生活においてもハッとさせられることが多いのも好きな理由です。

駅伝といえば、「タスキをつなぐ」場面が見どころでもあります。今年は復路の鶴見中継所で國學院大学がわずか5秒、距離にして約20メートルのところタスキをつながらず、テレビで見ていると思わず目頭が熱くなりました。

「つなぐ」ことに情熱を注ぐのは、大学生に限らず、わが明倫小学校にもあることだと思います。先月行われた「6年生を送る会」での子どもたちの発表にも情熱を感じました。歌や楽器演奏、劇の発表では、「あとは頼むよ」と6年生。「まかせてください」と下級生。とても素敵な発表でした。

そして、われわれPTA役員も次年度に「タスキをつなぎ」ます。顔ぶれも変わり、新たな歴史を刻んでくれるものと信じております。来年度も本PTA活動にご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

# 「たった一つの細胞だった私たち」

校長 稗田 洋子

先日、ある研究会で講演を聴きました。講師は、京都大学名誉教授であり、歌人としても活躍されている永田和宏先生です。演題は「問う力～知の体力とは？～」というものでしたが、永田先生ご自身の専門である細胞生物学にかかわる事例がお話の所々に出てきました。

その中で、とても印象に残ったことがありましたので、紹介します。

動物の細胞1個の大きさは $1\mu\text{m}$ （ $1\text{mm}$ の $1000$ 分の $1$ ）です。私たち人間一人分の体の細胞すべてを数えたとしたら、約何個あると思いますか？実は $2013$ 年に発表された論文によると、およそ $37$ 兆個あるそうです。もしも、ヒトのすべての細胞を一行に並べることが出来るとしたら、どのくらいの長さになるでしょう。 $1\mu\text{m}$ を $37$ 兆倍すれば分かりますね。計算してみると、約 $37$ 万 $\text{km}$ にもなるのです。これは、なんと地球の約 $9$ 周分にも当たるのです。すごいことだと思いませんか？

最初は精子と卵子が受精して一つの受精卵が生まれ、始まった私たちの命。誰もが、もとはといえばたった1個の細胞だったのです。それが、今や地球 $9$ 周分にもなる細胞の数へと自力で成長させているのですから、私たち一人一人、みんな、「すごい存在」なのです。

このお話を聴いて、何だか子どもたちのことが愛おしくなりました。

もちろん、今、隣の部屋ですやすやと眠っておられるお子様も、同じようにたった1個の細胞から分裂・成長を繰り返し、自分の力で $37$ 兆個もの細胞からなる体へと変化させているのです。「すごい存在」なのです。

さあ、寝息を立てて眠っている我が子の顔を、そうっと見てみましょう。時には親に憎たらしいことを言ったり、自分を守ろうとそをついたり、なかなか宿題ができなかったり……。「もう、いい加減にしろよ！」とキレそうになることもあるでしょうが、我が子もがんばっているのです。細胞レベルで見れば、信じられない成長・革命なのです。明倫小学校の子どもたち一人一人も、日々がんばって成長を繰り返している、こう思うと、どの子も愛おしくなってきます。そして、「がんばってるね！」「今日もがんばったね！」と声をかけたくなるのです。

後になりましたが、PTA活動の要としてお世話になりました本部役員・各委員の皆様方、本校の教育活動にご支援・ご協力いただきましたPTA会員の皆様方に感謝申し上げます。

